

科目名	情報処理試験春期対策ⅢA									
科目名(英)										
単位数	3単位		時間数		46時間		担当者		志水、久家、今村、村上、古賀、相原、 晶添、藤澤、木村、打越、久保山、姫 野、西野、山下	
実施年度	2019年度		実施時期		前期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年									
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。									
授業形式	講義： ○		演習： ○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標				
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。				
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。				
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。					確認テストの範囲の復習をしておくこと。			
	6	確認テスト					間違えた問題のやり直しを実施すること。			
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。					確認テストの範囲の復習をしておくこと。			
	11	確認テスト					間違えた問題のやり直しを実施すること。			
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。					確認テストの範囲の復習をしておくこと。			
	16	確認テスト					間違えた問題のやり直しを実施すること。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	○	◎				100%			
履修上の注意										

科目名	情報処理試験秋期対策ⅢA						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	32時間		担当者	志水、打越、西野、久家、 村上、柴内、木村
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義：	○	演習：	○	実習：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みついて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							

科目名	プログラミング演習Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	28時間		担当者	久家 政人
実施年度	2019		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	機械学習に利用される基本技術を学び、入門用の実践環境の利用方法を学ぶ。 機械学習の代表的なアルゴリズムの基本を実践する。						
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				機械学習に利用される数学の初歩知識が説明できる	
		○				機械学習に利用されるPython言語の基本文法を使用できる	
		○				機械学習の主要なアルゴリズムを説明できる	
テキスト・教材 参考図書	いちばんやさしい ディープラーニング 入門教室 ソーテック社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	■Chapter1 ディープラーニングと機械学習				Google アカウントを準備しておくこと	
	2	■Chapter2 Pythonの準備と基本文法					
	3	■Chapter2 Pythonの準備と基本文法					
	4	■Chapter2 Pythonの準備と基本文法					
	5	■Chapter3 ディープラーニングの体験					
	6	■Chapter1 ディープラーニングと機械学習(機械学習の歴史)					
	7	■Chapter1 ディープラーニングと機械学習(基本数学)					
	8	■Chapter4 ニューラルネットワークの基本					
	9	■Chapter4 ニューラルネットワークの基本					
	10	■Chapter4 ニューラルネットワークの基本					
	11	■Chapter5 畳み込みニューラルネットワーク					
	12	■Chapter5 畳み込みニューラルネットワーク					
	13	■Chapter5 畳み込みニューラルネットワーク				これまで学んだ用語を整理しておくこと	
	14	整理ノート作成					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題・レポート	○	○		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	モバイルアプリケーション開発演習Ⅱ							
科目名(英)								
単位数	5単位		時間数	84時間		担当者	久家 政人	
実施年度	2019		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンス2年							
授業概要	・モバイルアプリ開発入門での基礎知識を応用し、異なる仕組みでのアプリケーション開発手法を習得する ・すでに学んだ技術を応用し、モバイルアプリケーションを開発する ・コンテスト出展等により、外部公開を目的とする							
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
		○				モバイルアプリケーション開発の授業で学んだ基礎技術を実践する		
		○				モバイルアプリケーション開発の応用技術を習得する		
テキスト・教材 参考図書	React Native＋Expoではじめるスマホアプリ開発 JavaScriptによるアプリ構築の実際 マイナビ出版							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1～3	第1章 React Nativeとは React NativeとExpo/CRNAについて把握 個人開発アプリ企画立案						
	4～6	第2章 開発環境の構築 第3章エミュレータ/シミュレータによる確認 個人開発アプリ企画立案						
	7～9	第4章 TODOアプリで学ぶ初めてのReact Native 個人開発アプリ企画選定				指示に従い、企画案を提出すること		
	10～12	第5章 電卓アプリ開発で学ぶFlexboxレイアウト 個人開発アプリ詳細設計(機能設計)						
	13～15	第6章 UIライブラリによるTODOアプリの拡張 個人開発アプリ詳細設計(機能アクティビティ図)						
	16～18	第7章 React Nativeの状態管理(Flux/Redux) 個人開発アプリ詳細設計(機能シーケンス図)						
	19～21	第8章 地図アプリとGPSロガーアプリ制作で学ぶ実践的React Native開発 個人開発アプリ詳細設計(画面設計)						
	22～24	第9章 WebViewプログラミング 個人開発アプリ詳細設計(データ設計)						
	25～27	第10章 ネイティブモジュールを利用した開発 個人開発アプリ詳細設計(テスト設計)						
	28～30	個人開発アプリ詳細設計(テスト設計)				指示に従い、設計ドキュメントを提出すること		
	31～33	個人開発アプリ製造						
	34～36	個人開発アプリ製造						
	37～39	個人開発アプリテスト						
	40～42	個人開発アプリリリース・web発表				指示に従い、発表用資料を提出すること		
	評価方法	(1)作品提出期限・過程を評価する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		成果物提出状況		◎				40%
課題・レポート			○		◎		40%	
出席状況・授業態度					◎		20%	
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。							

科目名	サーバ構築演習						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	28時間		担当者	久家 政人
実施年度	2019		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	情報工学科 3年・情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	Amazon Web Servicesを使ったクラウド運用でのアプリケーション開発をハンズオン形式で作りながら学ぶ						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				アプリケーション作成のためのクラウド環境の構築ができる	
		○				クラウド環境を利用して初歩的なアプリケーションの作成ができる	
テキスト・教材 参考図書	AmazonWebServicesアプリ開発運用入門 秀和システム						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1 章AWSを使いはじめよう!				AWS educateのアカウントを作成しておくこと(事前指示あり)	
	2	1 章AWSを使いはじめよう!					
	3	1 章AWSを使いはじめよう!					
	4	2 章AWSでソースコードの管理をしよう				GitHubアカウントの準備	
	5	2 章AWSでソースコードの管理をしよう					
	6	2 章AWSでソースコードの管理をしよう					
	7	3 章アプリケーションをAWSで動かそう					
	8	3 章アプリケーションをAWSで動かそう					
	9	4 章継続的デリバリーを実践しよう					
	10	4 章継続的デリバリーを実践しよう					
	11	5 章タスク管理機能を作ろう					
	12	5 章タスク管理機能を作ろう					
	13	5 章タスク管理機能を作ろう					
	14	5 章タスク管理機能を作ろう					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題・レポート	○	○		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・小テストについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	プロジェクト開発演習A						
科目名(英)							
単位数	13単位		時間数	196時間		担当者	久家 政人
実施年度	2019		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	・チームによるアプリケーション開発作業を行い、問題点を適切に対処した「プロジェクト管理」を経験する。 ・ロリポップレンタルサーバーを用いて実際にサービスを公開する ・詳細設計書に基づく開発を経験したのち、設計からの開発を実践する。 ・開発作業の成果物について「ドキュメント・ソース管理」を行う。						
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				チームによる開発作業において、スケジュール、問題管理を行える。	
		○				開発作業の生産物をソース管理ソフトウェアを使用して管理できる。	
テキスト・教材 参考図書	プロジェクト実行ガイド大全(日経BP社) わかばちゃんと学ぶ Git使い方入門(シーアンドアール研究所) 「プロジェクトマネジメント」実践講座(日本実業出版社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～7	開発環境構築、PHPの基礎、チーム分け				ロリポップアカウントを作成しておくこと	
	8～14	ドキュメントから開発をおこなう				チームで企画を検討しておくこと	
	15～ 21	ドキュメントから試験をおこなう				チームで企画を検討しておくこと	
	22～ 28	企画選定					
	29～ 35	設計・第一回レビュー					
	36～ 42	テスト設計・最終レビュー					
	43～ 49	開発				以降、毎週金曜日までに進捗レビュー準備をしておくこと	
	50～ 56	開発					
	57～ 63	開発					
	64～ 70	開発					
	71～ 77	テスト					
	78～ 84	テスト					
	85～ 91	発表資料作成					
	92～ 98	振り返り・改良・コンテスト準備					
	評価方法	(1)プレゼンテーションによる評価会を実施する。(2)制作過程の進捗状況の評価する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
発表・作品			◎				40%
成果物提出状況			◎				40%
出席状況・授業態度					◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	一般教養ⅡA										
科目名(英)											
単位数	1単位			時間数	28時間			担当者	畠添 正和		
実施年度	2019年度			実施時期	前期			実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンス2年										
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語分野:前期は、計算を「基本通りに行い」答えを求める手順を確認する。⇒ 求めた答えと一致する「選択枝」を選択する。 SPIテキスト(非言語分野)の未消化分は、後期に継続して行う。 (2)言語分野:出題パターンの確認及び練習問題を演習する。										
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				非言語分野の計算が基本通りに答えを求めることができる。					
		○				言語分野の練習問題をとくことができる。					
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(5月末に最新版を購入・配布)										
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示			
	1	就職筆記試験について数学分野(1回目)仕事算									
	2	数学分野(2回目)水槽算									
	3	SPIテキストの構成・内容の確認、国語1(二語の関係①)テキストの数学1の内容確認・練習問題									
	4	国語2(二語の関係②)数学分野(3回目)鶴亀算									
	5	国語3(文法)数学分野(4回目)連立方程式の練習問題									
	6	国語4(語句の意味)数学分野(5回目)濃度算						小テスト範囲の復習をしておくこと			
	7	小テスト(数学1. ～ 数学4-2)									
	8	小テスト 返却&解説 国語5(短文の穴埋め)、数学分野(6回目)損益算						小テストで間違えた問題の復習をしておくこと			
	9	国語6(文章整序)数学分野(7回目)流水算									
	10	国語7(空欄補充)数学分野(8回目)参考問題									
	11	国語8(長文読解)、国語9(参考問題)数学分野(9回目)年齢算									
	12	数学分野(10回目)場合の数									
	13	数学分野(11回目)確率						これまで学んだ範囲を復習しておくこと			
	14	数学分野(12回目) 定期試験対策						定期試験対策で整理した内容を復習しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テスト(小テスト)を1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)出席状況を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	○	◎				40%				
	小テスト	○	◎				40%				
	授業態度など				◎		20%				
履修上の注意											

科目名	英語コミュニケーションA						
科目名(英)	English Communication A						
単位数	1単位		時間数	28時間		担当者	山下 満里
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	未来のITエンジニアが身に付けるべきグローバルコミュニケーションスキルを習得する。毎回Warm Upとして基本文法と基本の発音演習により英語の苦手意識を取り除く。ITエンジニアがよく使う英単語、表現をインプットし、コミュニケーションの相手ごと(顧客、開発パートナー、ハードウェアベンダー、社内)にITビジネス現場で遭遇するシチュエーションでの会話を聞きキープフレーズを使えるようにする。						
授業形式	講義:	○	演習:	実習:	○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				基本文法を理解し、文章を組み立てることができる	
	○	○	○	○		基本の単語を正しく発音することができる	
	○	○				ITエンジニアがよく使う英単語、表現を使用することができる	
	○	○				相手とシチュエーションごとの会話ができる	
テキスト・教材 参考図書	・ナツメ社 ITエンジニアのための英会話&キープフレーズ ・技術評論社 問題解決力とコーディング力を鍛えるえいごのいろは ・The Japan Tmes 英語のリスニングは発音力で決まる！UDA式30音練習帳						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	発音演習:口まねトレーニング 基本の文法:動詞 英単語、表現 会話:Part 1 紹介・プレゼンテーション Chapter 1 顧客					教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
	2	発音演習:口まねトレーニング 基本の文法:動詞 英単語、表現 会話:Part 1 紹介・プレゼンテーション Chapter 2 開発パート					教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
	3	発音演習:子音の強化トレーニング 基本の文法:動詞 英単語、表現 会話:Part 1 紹介・プレゼンテーション Chapter 3 ハードウェア					教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
	4	発音演習:子音の強化トレーニング 基本の文法:前置詞 英単語、表現 会話:Part 1 紹介・プレゼンテーション Chapter 4 社内					教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
	5	発音演習:子音の強化トレーニング 基本の文法:前置詞 英単語、表現 会話:Part 2 検討・決議 Chapter 1 顧客					教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
	6	発音演習:子音の強化トレーニング 基本の文法:名詞 英単語、表現 会話:Part 2 検討・決議 Chapter 2 開発パートナー					教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
	7	発音演習:子音の強化トレーニング 基本の文法:形容詞 英単語、表現 会話:Part 2 検討・決議 Chapter 3 ハードウェアベンダー					教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
	8	発音演習:子音の強化トレーニング 基本の文法:副詞 英単語、表現 会話:Part 2 検討・決議 Chapter 4 社内					教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
	9	発音演習:母音の強化トレーニング 基本の文法:前置詞と副詞 英単語、表現 会話:Part 3 交渉・説得 Chapter 1 顧客					教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
	10	発音演習:母音の強化トレーニング 基本の文法:接続詞 英単語、表現 会話:Part 3 交渉・説得 Chapter 2 開発パートナー					教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
	11	発音演習:母音の強化トレーニング 基本の文法:接続詞 英単語、表現 会話:Part 3 交渉・説得 Chapter 3 ハードウェアベン					教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
	12	発音演習:母音の強化トレーニング 基本の文法:指定ルール 英単語、表現 会話:Part 3 交渉・説得 Chapter 4 社内					教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
	13	発音演習:母音の強化トレーニング 基本の文法:説明ルール 英単語、表現 会話:Part 5 対面以外のコミュニケーション形式					教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
	14	発音演習:母音の強化トレーニング 基本の文法:Review 英単語、表現 会話:Part 5 対面以外のコミュニケーション形式 Chapter					教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
	15						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)毎回小テストを行う。(3)宿題として自分の発音、会話を録音する。(4)発表をおこなう。 以上を下記の観点割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	小テスト	○	◎				20%
	宿題・レポート				◎		20%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回以上で定期試験の受験資格が得られる。						

科目名	就職実務 I A						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	28時間		担当者	久家政人
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンスコース2年						
授業概要	次年度就職に向けて、スムーズな就職活動ができるように前期の準備を行う。 業界研究や職種研究を通じて、将来の働くイメージを具体的に描いていく。 企業研究の方法を知り、受験したい企業を選択する。 履歴書(業界・職種志望理由、自己PR他)を作成する。						
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					IT業界の特徴を説明できる	
	○	○				業界と職種の志望理由を述べることができる	
		○				就職採用試験に提出する履歴書が準備できる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾オリジナル)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	就職の目的 / 働くこと、社会人基礎力の理解					
	2	業界研究1					課題提出
	3	業界研究2					
	4	業界研究3					課題提出
	5	業界研究4					
	6	職種研究					課題提出
	7	職種研究					
	8	職種研究					
	9	業界・職種志望動機まとめ1					課題提出
	10	業界・職種志望動機まとめ2					
	11	企業研究1					課題提出
	12	企業研究2					
	13	履歴書作成1					課題提出
	14	履歴書作成2					課題提出
評価方法	(1)適宜レポート課題提出 (2)授業の出席状況・授業態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート課題	◎	○				50%
	出席状況・授業態度				◎		50%
履修上の注意	出席が10回(全14回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡ						
科目名(英)	Business CommunicationⅡ						
単位数	1単位		時間数	28時間		担当者	川原ユウジ
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	情報工学科3年 情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	ディベートの基礎知識を習得し、実習を行うことで論理的な討論技法を段階的に身につける。 ①客観的、批判的、多角的な視点が身につく。 ②論理的な思考表現が出来るようになる。 ③自分の考えを筋道を立て、人前で堂々と主張できるようになる。						
授業形式	講義： ○		演習： ○		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標	
	○					ディベートの手法を理解できる。	
		○				きちんと理由、筋道をつけて自分たちの主張を相手に伝え、納得してもらうことができる。	
テキスト・教材 参考図書	ネコと学ぶディベートの本						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	第1章 ディベートとは 第2章 ディベートのルール					
	2	第3章 ディベートの基礎					
	3	第4章 立論の作り方					
	4	第5章 反駁の考え方					授業内容に係るレポート作成および提出
	5	第7章 ディベートを行う準備 第9章 ジャッジ					
	6	①テーマ発表・準備					授業内容に係るレポート作成および提出
	7	①ディベート実技／振り返り／講評					授業内容に係る実技レポート提出
	8	②テーマ発表・準備					授業内容に係るレポート作成および提出
	9	②ディベート実技／振り返り／講評					授業内容に係る実技レポート提出
	10	③テーマ発表・準備					授業内容に係るレポート作成および提出
	11	③ディベート実技／振り返り／講評					授業内容に係る実技レポート提出
	12	④テーマ発表・準備					授業内容に係るレポート作成および提出
	13	④ディベート実技／振り返り／講評					授業内容に係る実技レポート提出
	14	まとめ					
15							
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 (4)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	小テスト	○					10%
	宿題・レポート	○	○		◎		10%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							